

# 平成30年度 アレルギー疾患都道府県拠点 病院モデル事業 報告

山梨大学医学部附属病院

アレルギーセンター

増山 敬祐

# ①アレルギー疾患患者や家族に対する相談対応

	対応方法	時間	対応者	内容
山梨大学	メール	平成30年9月18日	医師	高校2年の息子が競歩大会の練習中にアナフィラキシーを起こした。卵の食物アレルギーもありそう。学校の健康調査でアナフィラキシーに対して受診するように通知された。おすすめの病院はあるか。 以上の質問に対して当アレルギーセンターの受診をすすめた。
同上	メール	平成30年10月1日	医師	アトピー性皮膚炎の20歳男性。近医通院しているが、繰り返す皮膚炎に悩んでいる。受診希望。 以上の質問に対して当アレルギーセンターの受診をすすめた。
同上	メール	平成30年10月30日	医師	歯科治療で麻酔が必要と言われた。アレルギー検査でキシロカインとオーラに反応が出たため、他の麻酔薬が使えるか検査を受けたい。検査希望。 以上の質問に対して当アレルギーセンターの受診をすすめた。
同上	メール	平成30年11月12日	医師	以前歯医者で親知らずを抜いた際にひどく腫れた。その際に局所麻酔によるアレルギーか分からないと言われた。帝王切開の際に局所麻酔薬が使用できなかった。今後の妊娠のために局所麻酔のアレルギー検査をするように言われた。 以上の質問に対して当アレルギーセンターの受診をすすめた。
同上	メール	平成31年4月4日	医師	気管支喘息と耳鼻科疾患に悩んでいる。喘息は内科、耳鼻症状は耳鼻科にかかっているが、連携治療がしてもらえてない。アレルギー疾患の総合診療を希望。 以上の質問に対して当アレルギーセンターの受診をすすめた。
同上	メール	平成31年4月9日	医師	合宿に参加している60歳女性がバナナアレルギーの既往があると言っているのに合宿中にバナナを摂取し口蓋上部に痒みを感じている。病院に行って治療してもらった方が良いか？ 以上の質問に対して、全身症状が出現すれば医療機関の受診をすすめた。
同上	メール	平成31年5月12日	医師	小学生の子共にスギ舌下免疫療法を検討している。持続投与することでIgEが高い状態になることに弊害はあるか。 以上の質問に対して弊害はないと考えられると回答した。
同上	メール	平成31年5月20日	医師	陸上競技で800メートルを走った後席が止まらない。どうすればよいか。 以上の質問に対して対処法を回答した。
同上	メール	平成31年9月4日	医師	銀歯のブリッジを入れた後からアトピー性皮膚炎に悩まされている。ステロイド軟膏を塗っているが糖尿病の血糖値が上がり困っている。金属アレルギーによるアトピー性皮膚炎の可能性も含め原因を調べたい。 以上の質問に対して当アレルギーセンターの受診をすすめた。
同上	メール	平成31年9月13日	医師	夫（39歳）がハチに刺されアナフィラキシーを起こした。エピペンを携帯するように処方されている。仕事柄ハチと接触する可能性がある。ハチ毒減感作療法可能か。 以上の質問に対して、現在ハチ毒の減感作薬が輸入可能で対応可能と回答。
同上	メール	平成31年9月27日	医師	75歳の父がスズメバチに4回ほど刺されている。9月に刺されて入院加療をうけた。ハチ毒減感作療法可能か。 以上の質問に対して、現在ハチ毒の減感作薬が輸入可能で対応可能と回答。

## ②地域の医師に対するアレルギー疾患研修会の実施

	内容
山梨大学 病院	<p>「ステロイドの使い方」（院内講師） 「重症喘息と関連病態」（東海大学 浅野浩一郎教授） 「アレルギー疾患におけるIgEの役割と蕁麻疹の治療標的」（広島大学秀 道広教授） 「アレルギー疾患診療におけるプレジジョン・メディシンの推進」（佐賀大学 出原賢治教授）</p> <p>・年4回、上記内容の講演会を山梨大学で実施し、医療従事者の知識向上を図った。参加者は近隣医療機関の医師、薬剤師、コメディカルを中心に30～100名参加した。</p>
甲府市	<p>アレルギー疾患対策基本法を踏まえたアレルギーセンターの役割について、甲府市医師会員を対象に講演会を開催した。アレルギーセンターの医師による取り組みについて解説し、困った症例があれば気軽に紹介できることをアピールした。</p> <p>実績 講演会開催後、食物アレルギー、舌下免疫療法導入症例の紹介が増えた。また、食物負荷試験の依頼も増え、センターでの食物負荷試験を開始した。</p>
山梨大学 病院	<p>・医療従事者に対する人材育成研修会の実施を予定している。</p>

# ③アレルギー疾患に対する情報提供

	内容
山梨大学	<p>アレルギーセンターのHPにFAQサイトを設けて、アレルギーに関する質問に対する回答を予め準備していて、利用者が検索すると検索ワードに関連した質問、回答が表示されるシステムとなっている。閲覧数が多い質問を示す。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 アレルギーがあるかわかりませんが、検査はどこで受けられますか？</li><li>2 アレルギー性鼻炎は一生治らないのですか？</li><li>3 アレルギーの原因がほこりやダニだと聞きましたが、掃除や寝具の素材はどうしたら良いでしょうか。掃除は毎日しないといけませんか？布団は毎日干さないといけませんか？</li><li>4 アナフィラキシーは一生治らないのですか？</li><li>5 咳喘息はどうやって診断しますか？小児期に喘息はありますか？</li></ol> <p>大都市圏を中心に全国的にユーザーが分布し、年代は25歳～54歳の女性が多いことが分かった。</p> <p>改善点：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・訪問数が多いアンサーの評価はサイトの評価に大きく影響するため、優先的なメンテナンスを行う必要がある。</li><li>・アンサー詳細ページへの誘導と関連回答リストを改善することでアクセス向上効果を期待できる。</li></ul> <p>市民公開講座はこれまで3回行った。</p> <p>1回目 2018年3月10日 イオンモール甲府昭和にて参加者78名 2回目 2019年2月23日 アピオにて参加者42名 3回目 2019年3月2日 富士吉田市民会館にて参加者63名</p>

# ④ アレルギー疾患に係る診断等支援

	内容
山梨大学 病院	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 紹介患者数85名（10歳未満27名、10歳台29名、20～30台12名、50歳以上17名）</li><li>・ 疾患の内訳：食物アレルギー34名、アレルギー性鼻炎22名、アナフィラキシー7名、OAS7名、FDEIA6名、その他9名。食物アレルギーの紹介目的は、負荷試験依頼と原因検索が主体であった。アレルギー性鼻炎では、舌下免疫療法の導入依頼が7割を占めた。</li></ul> <p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 食物負荷試験の実施を開始し、月2名の頻度で行っている。</li><li>・ 成人食物アレルギーに対する対応を開始した。</li><li>・ ホームページにおけるFAQの構築と改善。</li><li>・ 医療従事者に対するセンター外来の見学支援。</li></ul> <p>予定</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ アレルギーの検査や治療を行なっている県内の医療機関に関する情報提供をホームページ上で公開。</li><li>・ 医療従事者に対する研修会を実施。</li><li>・ 乳幼児・施設関係者向けの研修会（実技と講習）を実施し人材育成を図る。（県と協力）</li></ul> <p>問題点</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 救急におけるアナフィラキシーへの対応が不十分。</li></ul>